

10月2日、東京都足立区の都立足立高校。1年生の美術Iの授業で生徒たちが使う机の上には、作品の素材となる樹脂粘土のほかタブレット(多機能携帯端末)が置かれていた。

2学期のテーマは「食品サンプルの製作」。計13回の授業でサンプルをつくり最後は全員で鑑賞する。この日の作業は粘土の加工。美術担当の柴田有歌理教諭(30)が「ある程度できた



美術の授業中、タブレットを利用する生徒(東京都足立区の足立高校)

タブレット活用

らタブレットで撮影して、生徒たちは「ジャッキーな」と指示すると、生徒、製作途中のサンプルを

作品撮影 互いに感想

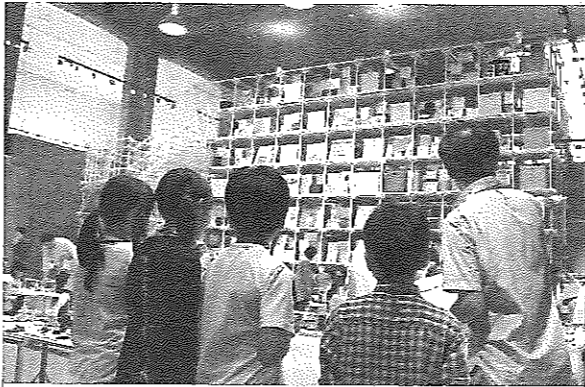
色々な角度から撮影した。画像はクラスの共有ファイルに保存し、互いに見ることが出来る。生徒の佐藤高磨さん(16)は「机に並べて鑑賞するのと違い、好きな作品をじっくり見られる。拡大もできて便利」とデータ化の利点を挙げる。

東京都からICTの活用推進校に指定されている同校ならではの授業だ。学校の授業でのICT活用を推進する茨城県つくば市。市立つくば輝翔学園谷田部中学校の美術の授業でも、タブレットが存在感を発揮している。

河野教諭は「部分の拡大などにより豊富な視覚的説明が可能になり、生徒の表現力や発想力が伸びた」と指摘する。

美術教育 描き直す

美術の授業が変わり始めた。情報通信技術(ICT)の活用や美術館での仕事体験など、従来の枠にとらわれない取り組みが広がる。底流にあるのは絵画などを製作する「表現」と、作品を味わう「鑑賞」とともに重視し、感性を磨き作品を愛(め)でる心を育もうとする考えだ。生徒同士で感想を話し合うなどしてコミュニケーション力を養う活動も重みを増している。



スペシャル・マンデー・コースに参加する子供たち—東京都美術館提供

本物に触れ感性磨く

「こんな感じに描いてほしいんだ」など、自由に感想を話し合った。子供の感性を大切に、作品の解説はしない。総合的学習の時間を活用して参加した荒川区立第9峽田小学校の吉本綾教諭(44)は「普段はおとなしい子も、とびラーとは楽しそうに話していた」と驚く。

コースが始まったのは同校が改装オープンした2012年。本物に触れさせた学校側と、美術鑑賞の習慣を身につけてもらいたい美術館側の狙いが一致。学校との間で無料の送迎バスも運行する。今年度は年4回実施。3校の募集枠に対し、毎回10校以上の応募がある。担当する学芸員の熊

谷香寿美さん(39)は「学校との連携などは試行錯誤の段階だが、子供たちの芸術への入り口になれば」と期待する。

千葉市の千葉県立幕張総合高校も08年から美術の授業の一部として美術館の仕事体験を始めた。企画展の設置や運営を手伝う中で、美術館の役割や展示作への理解を深めることを狙う。

表現と鑑賞 バランスを重視

「美的感覚や美術を愛する心を養う美術教育本来の目的から、表現だけでなく鑑賞が重視され始めた」。美術教育の変化の背景について、日本美術教育学会事務局長の大橋功・岡山大学院教授はこう指摘する。大橋教授によると、美術教育の柱はもともと表現と鑑賞の2つだったが、テストで成績評価する他教科の影響もあり、作品で評価が決まる表現に重きが置かれがちだった。しかし近年、鑑賞の役割を見直す傾向が強まり、文部科学省も2012年

から全面实施された中学校の学習指導要領で表現と鑑賞のバランスを重視する姿勢を打ち出した。この流れの中で「細部の詳細な鑑賞を可能にするタブレットなどICTの導入が広がりつつある」(大橋教授)。他教科と同様にコミュニケーションを重視する傾向も強まっており、生徒同士や学芸員との間で作品を評価し合う「対話型」の鑑賞が増えている。作品の感想を話し合う中で、ほかの生徒との感性の違いに気づかせることなどが狙いだ。

美術館で授業

意味に着目した展示だ。子供たちは展示されている石、器、道具といった様々な物を「とびラー」と呼ばれる案内係と一緒に鑑賞。「思ったより小さい」

学 ぶ

アラブの料理と心を知る

パンや肉料理を教わったが、中東料理では前菜も重要。メニューが豊富で出てくるまで会話しながら食欲を盛り上げるうえで、脇役とはいえない。かき揚げも存在だ。

日本留学歴もあるヨルダン大使のご厚意で、夫人のシェファさんにペースト類の作り方を教えてもらった。メッセと呼ばれる前菜の中でもアラブで代表格の品々だ。

一番簡単なのはヨーグルト。布袋にお好みの量を入れ、前日夜から水道の蛇口につるしておけば翌朝水分が抜け、ほどよいペーストの塊になっている。お皿に移しオリーブオイルを一筋垂ら

体験学

せば「ラバネ」という前菜だ。サンプルだが平たいアラブパンにのせておく。

アさんは「ザータ」というペーストの作り方を実演してくれた。ハープのタイムをミキサーにかき粉末状に。そこにスマクという赤い色の粉をまぜる。何ですかと問うと「ワルシンの仲間」という。梅干しやシソと似た酸味が

ねていくと、中東でパンに付け味わった深みのあるディップがで上がる。自分で作る時はスマクをシンで代用か。



タイムやヒヨコ豆とゴマのペースト「ホンモス」、白ゴマを使う「タヒーナ」などもおなじみのペースト。オリーブ油とニンニクを加えると一層食欲をそそる。ニンニクやタマネギはイスラムの聖典コーランに出てくる「ありがたい野菜」で、教徒ら

奥が深い中東のおもてなし

友人の来訪延期に少し「ホッ」

ほかにヒヨコ豆とゴマのペースト「ホンモス」、白ゴマを使う「タヒーナ」などもおなじみのペースト。オリーブ油とニンニクを加えると一層食欲をそそる。ニンニクやタマネギはイスラムの聖典コーランに出てくる「ありがたい野菜」で、教徒ら

び、今も勉強熱心だ。スープに始まり今回習った前菜、主菜、デザートという4品が基本のコースは「西洋由来と思われがちだが、起源は中東にある」との話を教えてくれた。考案者はシルヤブという入

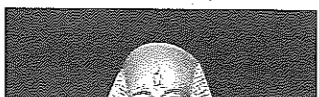
うかと考えていたら、都合で来訪を延期したいと連絡が入った。準備不足の身としては少し安堵。後ウマイヤ朝には及ばないが失礼のない味をめざし修業に励む。

ひと言

料理は生活の糧であると同時に、歴史や社会、人々の営みを映す。中東の奥深さを改めて感じさせられた。

がいどガイドワイド

国立カイロ博物館所蔵 黄金のファラオと大ピラミッド展 2016年1月3日まで、六本木・森アーツセンタ



かる。11月24日休。1800円。ハローダイヤル03・5777・8600。

没後10年「長新太の脳内地図」展 11月3日まで、馬堀海岸・横須賀美術館 046・845・1211。漫画家、イラストレーター、エッセイスト、絵本画家として活躍した長新太の創

学美術館・図書館 042・342・6003。

夢見るフランス絵画 印象派からエコール・ド・パリへ 11月23日まで、宇都宮・宇都宮美術館 028・643・0100。約70点のフランス近代絵画を展示。ルノワール「宝石をつけたガブリエル」ほか。月曜、11月4日休。

ハロウィーンには不思議なことが起こるって本当でしょうか。この図書館では仮装した子供たちがたまに前を通りかかったことをきっかけに、新しく、利

こころの一本

「ハロウィーンの魔法」

少



リーヌはじいさんの飼うガチョウに突かれるなど、ひどい目に遭いますが、ある日、大げをしたじいさんを助けたことで2人の間に不思議なつながりが生まれ